

### 3. 研修実施に係るデータ

#### 3-1. 実施時期および期間

	実施時期	期間
第1回	2005（平成17）年6月27日～7月9日	2週間
第2回	2006（平成18）年2月6日～2月18日	2週間
第3回	2006（平成18）年6月26日～7月8日	2週間
第4回	2006（平成18）年8月21日～8月25日	1週間
第5回	2007（平成19）年1月22日～2月3日	2週間
第6回※	（当初予定：2007（平成19）年6月27日～7月28日）	（当初予定：4週間）
第7回	2008年（平成20）年1月21日～2月2日	2週間
第8回	2008年（平成20）年6月23日～7月18日	4週間
第9回	2009（平成21）年1月19日～1月30日	2週間
第10回	2009（平成21）年6月29日～7月24日	4週間

※ プログラムを計画し、学生募集も行ったが、本学における百日咳流行のため中止。

#### 3-2. 参加学生

	人数	内 訳										
		性別		出身別			学年別				日本語専攻/非専攻の別	
		男性	女性	韓国	台湾	中国	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻	非専攻
第1回	17	5	12	17	0	0	0	6	4	7	15	2
第2回	13	7	6	2	11	0	0	9	4	0	1	12
第3回	6	1	5	6	0	0	2	2	0	2	2	4
第4回	22	6	16	0	0	22	8	9	5	0	0	22
第5回	19	3	16	0	19	0	3	5	3	8	14	5
第6回※1												
第7回	8	1	7	3	5	0	0	3	1	4	3	5
第8回	9	2	7	9	0	0	6	0	2	1	8	1
第9回	16	3	13	8	8	0	1	6	4	5	5	11
第10回	14	5	9	8	5	1	0	6	6	2	8	6
計	124	33	91	53	48	23	20	46	29	29	56	68

※1 プログラムを計画し、学生募集も行ったが、本学における百日咳流行のため中止。

#### 参加学生の出身大学別内訳（ゴシックは交流協定大学）

	韓国				台湾			中国		
	韓国海洋大学	南ソウル大学※2	大邱大学	建国大学	蔚山科学大学	南台科技大学	真理大学	輔仁大学	河北医科大学	北京工業大学
第1回	2	15								
第2回	1					12				
第3回		1	5							
第4回									22	
第5回						19				
第6回										
第7回				3			5			
第8回		9								
第9回				3	5		5	3		
第10回		3	2	3			2	3		1

※2 南ソウル大学は、2006年3月（第2回研修の翌月）に協定締結のため、第1回参加時には協定未締結。

### 3-3. 担当教職員

	留学生センター専任教員	同非常勤講師	主たる担当事務職員
第1回	ロン・リム、高水 徹、塩井実香	広嶋 伸子 石井 敬子 和田 方子	留学生グループ 塩田純久
第2回	ロン・リム、高水 徹、塩井実香	長田佳奈子	留学生グループ 塩田純久
第3回	ロン・リム、高水 徹、塩井実香	広嶋 伸子	留学生グループ 白井 修
第4回	ロン・リム、高水 徹		留学生グループ 白井 修
第5回	ロン・リム、高水 徹、塩井実香	広嶋 伸子	留学生グループ 白井 修
第6回 (※1)			
第7回	ロン・リム、高水 徹、塩井実香	和田 方子	留学生グループ 白井 修
第8回	ロン・リム、高水 徹、塩井実香 正楽 藍	和田 方子 大野呂節子	留学生グループ 藤川 勝
第9回	ロン・リム、高水 徹、塩井実香 正楽 藍	大野呂節子	留学生グループ 藤川 勝
第10回	ロン・リム、高水 徹、塩井実香 正楽 藍	大野呂節子	国際グループ(※2) 宮脇みどり

※1 第6回は、百日咳流行のため中止。

※2 旧留学生グループ。事務組織再編に伴う名称変更。

### 3-4. 学外実習

	観光名所等	文化施設等	企業、研究所等	香川大学内
第1回	金比羅宮、金丸座 引田町、直島(※2)	歴史博物館 サンポート		
第2回	栗林公園、玉藻公園	歴史博物館 サンポート 香川県庁展望台 香川県文化会館	穴吹工務店アメニティデザインラボ 産業技術総合研究所四国センター	工学部
第3回	栗林公園、玉藻公園	歴史博物館 サンポート	財団法人香川県下水道公社見学 三谷製糖羽根さぬき本舗	
第4回	栗林公園、玉藻公園	歴史博物館		医学部附属病院
第5回	栗林公園、玉藻公園	歴史博物館 サンポート	隆祥産業株式会社 四国新聞社	
第6回 (※1)				
第7回	栗林公園、玉藻公園	サンポート	石丸製麺株式会社 山西商店(桐下駄)	
第8回	栗林公園、玉藻公園 金比羅宮、男木島(※2)	四国村	石丸製麺株式会社 NHK 高松放送局	
第9回	栗林公園	四国村	石丸製麺株式会社	
第10回	栗林公園、玉藻公園 金比羅宮、直島(※2)	サンポート	石丸製麺株式会社 株式会社瀬戸内海放送局(KSB)	

※1 第6回は、百日咳流行のため中止。

※2 直島と男木島は、本プログラムの研修ではなく、本学在籍留学生による日帰り旅行への任意参加。

### 3-5. 体験学習

	体験学習	担当講師
第1回	華道	岡市氏（元本学学長の奥様）
第2回	なし	
第3回	なし	
第4回	なし	
第5回	なし	
第6回 （※）		
第7回	華道（嵯峨流） 茶道（表千家）	明石氏（仏生山国際交流会） 香川大学表千家流茶道部
第8回	茶道（表千家） 華道	香川大学表千家流茶道部 香川大学華道部
第9回	茶道（表千家） 華道	香川大学表千家流茶道部 香川大学華道部
第10回	茶道（裏千家） 書道 華道	香川大学裏千家茶道会 香川大学書道部 明石氏（仏生山国際交流会）

※ 第6回は、百日咳流行のため中止。

### 3-6. ホストファミリー

	ホームステイ協力家庭
第1回 （※1）	22家庭（本学在籍学生の家庭を含む）
第2回	9家庭
第3回	6家庭
第4回	ホームステイなし（※2）
第5回	19家庭
第6回 （※3）	
第7回	8家庭
第8回	9家庭
第9回	14家庭
第10回	12家庭

ホストファミリー所属団体等（県内国際交流団体等に所属の場合）：

仏生山国際交流会  
 高松ユネスコクラブ  
 高松東ライオンズクラブ  
 日本オセアニア友好協会  
 綾川国際交流会  
 香川日韓交流協会  
 ボーイスカウト香川連盟坂出第4団  
 飯山海外交流友の会  
 アイバル香川  
 香川県国際交流協会  
 高松市国際交流センター  
 香川大学

※1 第1回のみ研修全日程でホームステイ実施。本学学生もホストを担当。

※2 1週間のみの特別プログラムであったため、ホームステイはなし。

※3 第6回は、百日咳流行のため中止。

## 4. ホストファミリーからのメッセージ

先に3-6でもデータを示したとおり、これまで多くの地域の方々に、ボラティアによるホストファミリーとして、研修生のホームステイ受け入れにご協力いただいていた。おかげさまで、年を重ねるごとに、ホストファミリー情報交換会等を通じて、ホームステイ受け入れを希望し、本学ホストファミリーとしてご登録くださるご家庭も、徐々に増えてきた。

本報告書作成にあたり、語学研修プログラム開始当初よりご協力をいただいていた13名の方より、文章と写真を寄せていただくことができたので、感謝の意を表し、以下掲載させていただく。

---

### 韓国からの研修生を受け入れて

小 倉 美智子

私は、ドラマ「冬のソナタ」で韓国に興味を抱くようになり、ハングル語を学ぶようになりました。さらに、香川日韓協会に加入し、韓国からの留学生のホームステイを受け入れるようになりました。

香川大学の日本語語学研修プログラム留学生については、平成20年1月から6人受け入れてきました。来宅された学生さんに、家庭の味を満喫し、日本や香川の良さを理解してもらい、楽しい思い出を一杯作ってもらいたいとの気持ちで取り組んできました。当然、学生さんは生まれも育ちも異なりますが、全員家庭の躰ができており、大人しく礼儀正しい人ばかりでした。

皆さん、二十歳前後であるのに、食いしん坊だった自分の子供たちと比較して少食で、しかも結構好き嫌いのある人が多いように思われます。特に国情の違いからか、生魚に拒否反応を示すことが多く、これでよく体がもつのかと心配しながらも、できるだけ日本の食事を楽しんでもらおうと思って努力してきました。学生さんたちの感想文では、大半の人が「食事がおいしかった」と書いてくれています。

観光案内については、学校から訪問するところと重ならないよう、スケジュールを確認し、本人の希望も入れて計画しています。当然、金毘羅さんと瀬戸大橋は定番でいれていますが、始めの頃は映画「世界の中心で愛を叫ぶ」いわゆる「セカチュウ」を観ている人が多く、そのロケ地を希望する人が多かったのですが、最近はいなくなってきました。

香川ですから、うどん巡りも入れていますが、徳島に行って、徳島ラーメンを食べてもらおうと結構喜んでもらえました。また、香川県立ミュージアムで十二単衣を着せてもらうことができますが、それも一生の思い出になるようで、大変喜んでくれます。

学生さんたちの笑顔や「ありがとう」の言葉を受けて、そうたいしたことはできませんが、これからもささやかな国際交流を続けていきたいと思っています。

---

### ホストファミリー体験談

亀 井 泰 子

二年前から香大のホストファミリーをさせて頂いています。今まで台湾、韓国から三名の学生を引き受けさせて頂きました。

以前、大阪でホームステイの経験はありましたが、香川に帰ってからは両親の世話で時間がとれず、とても長いブランクがありました。又自由な時間ができ、ホームステイの夢がかない嬉しいかぎりです。香大からの学生は本当に心やさしい、いい子ばかりで、思いだすたびに私の気持ちを暖かくさせ、幸せな気分させてくれます。日本語もとても上手に話す事が出来、短期間しか勉強していないのに、驚きの連続でした。クリスマスにはカード、プレゼントを贈って頂き感激致しました。本当に若い人達と心を通わす事が出来、このプログラムには感謝しています。ずっと交流は続けていきたいですし、台湾韓国に将来是非行きたいと思っています。

## 私たち家族の国際交流

こうの野 まさる  
河 野 勝

私の妻の話からで恐縮ですが、妻は大学時代にハンドボール選手として、ヨーロッパに遠征したのが、身近に外国人に接し始めた最初です。

それは、通訳を介してではありますが、外国人の日本に対する意識、感覚の違いを痛感する最初でもあったという話をよく聞かされました。

まず、第一に自分の思いが相手に伝えられない、いわゆる「ことばの壁」。このことが一番のストレスと感じ始め、どうしたら少しでも克服できるのか、そんな話をしている中で、夫婦で何かを始めようという誠な動機が国際交流に関する事を始めた最初でした。

言葉はいろいろな民族によって異なり、それをすべて理解することは不可能です。しかし、その中でも多く使われていることばを学ぶことで、少しでも自分の意思を伝えることができ、また、相手の思いも理解できるのではないかと考えています。

ことばを学ぶには、その国に行き直接身に付けることが一番有効なことと思いますが、私達は仕事等の事情もあって、現在は、香川県が行っているアイパルの国際交流事業と香川大学の留学生センターでの留学生ホームステイ事業で外国人の受け入れということを実践しています。

私たち家族、夫婦と女の双子の小学二年生の子どもです。ちなみに、この2人のために「国際交流も産休」を取った時期もありましたが、今までに、フランス、ドイツ、最近ではタイ、台湾、マレーシア、韓国といった国の人たちを、長い期間で二週間、短い期間で2日から5日という形で、エンジニアや学生の方々を受け入れ交流を図ってきました。現在では、子どもたちも、まったく異文化の人たちに動じることもなくなり、ことばを覚えたり、日本語を教えたりしています。ホームステイが決まると楽しみにするようになっていきます。

私たちが接してきた人たち皆さんに言えることですが、皆さん、人権、平和、多文化、環境といった地球規模のさまざまな問題に対して、大変真剣に考えて理解を深めようとする気持ちが非常に大きく、まさに地球市民の意識が強い、きちんと自分の主張を持った人たちでした。

このことは、日本人同士では感じ取れないことであり、こうした交流があったからこそ、さまざまな経験が自分の宝となっていくということをポジティブに考



えるようになりました。

国際交流は実際に経験すること、これに勝るものはないと思います。人権、平和、民族文化、環境など自分がこれまで経験しなかったこと、自分たちがどう視野を広めればいいのかなどについて、できるだけ多く国際交流の場に接して、少しでも社会に貢献できればと考えております。

現在は、「妻は真剣に」、また、「子どもたちは少しいい加減に」??英語を習い、私は、なぜか中国語を習っています。

最後になりましたが、今年1月に受け入れた台湾の学生さんが、本人の努力もあって、台湾の大学を卒業後、香川大学に1年間の留学が認められました。交流事業に参加していると、こんな嬉しいことも起こります。

---

## " beautiful memories "

嶋田鈴枝

この度は関係各位のご尽力の賜物により日本語語学研修プログラムが第10回を数えられたとのこと、おめでとうございます。

私方ではお蔭をもちましてこれまで4回、台湾から6名・韓国から1名の留学生の受け入れをさせていただきました。初めてこのプログラムに参加させていただいたのは第5回で当時は二週間の受け入れプログラムがありまして、台湾の南台科技大学の孫 寶茹さん(愛称 ナオミ)を受け入れました。

ナオミは折り目正しく、家族への尊重を忘れず、流暢な日本語で不自由なく意思の疎通をはかることが出来ました。

忙しく日々過ごしている私どもにとりましては、ゆったりとした時の流れを味わっているナオミを目の当たりにして学ぶべきこと多々あったように思います。共働きで私は運転もしませんからナオミには不自由をかけました、通学は坂出駅まで自転車、JRそして自転車で大学まで通学していました。

当時、娘が高松商業に通っており、折々に通学を共にしていたこともあり、娘ととても仲良くなり、終了式の家族の挨拶時、ふと振り向くとナオミそして娘は目を真っ赤にしている冷静を装っていた私も感涙したものです。

帰国後も繋いでそうして二年後の夏に友人のティナと共に帰って来ました。

そして今夏は、昨夏に帰国した阮 天竣君が9月からの一年間の兵役を前に帰って来ました。

中には就職が決まりながら日本へ再留学したいとの決心を伝える子、日系企業の研修で東京へ一ヶ月行くことになったと伝える子、就職活動が上手くいかず、実家の店を手伝っていて今はフランスの友人宅に遊びに来ていると伝える子、便りの無いのは良い便りと考えられる子たち様々です。

“出会いと別れ” “さようなら こんにちは”

そうして思い合い響き合う、再会を夢見ることができる、双方向の関係が構築できるプログラムに参加させていただき家族一同嬉しく幸いです。

私は週末、ボーイスカウトで活動しています。

都合が合えば活動へ留学生たちに参加して貰って、スカウトたちとの国際交流プログラムを開いています。

～ 子どもたちの笑顔のために ～

これからも折々にこの素晴らしいプログラムに参加させていただきたいと思っております。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

ありがとうございました。

---

## 留学生との交流

世 羅 義 昭

平成19年のことになりますが、我が家に台湾からの留学生（女子）をお迎えしました。「日本のお父さん、お母さん」と親しみを待って言われる彼女は大変可愛くて我が子供のように感じたところでした。経験のないことでしたので夫婦共に気を使い楽しく過ごせるよう配慮したつもりでした。結果としては喜んでいただけ、別れの時には双方が涙ぐむほどの関係となりホストファミリーをして良かったと実感したところでした。現在でも、便りでお互いに健康を気遣いまた確認し合い、今後も結婚などのお祝いをも含め交流していくつもりでおります。今後も受け入れをしたいところですが、残念ながら元気がありません。留学生のためには、よく似た年齢のお子さんの方が理想かなと思ったところでした。

---

## 小さな国際交流

出 口 宗 樹

振り返れば、我が家に初めてホームステイをしたのは、今から10数年前にアメリカ ミネアポリスから来た高校1年の女子で約一カ月ほど滞在したのですが最初はホームシックにかかってしまい、長女が慰めたりした彼女も今は結婚して一児の立派な母親になっております。

それはさておき、我が家とISCとの関わりは知人より「ホストファミリーを引き継いでくれない？」と話があり、あまり躊躇う事無く引受け、2007年1月に台湾から来た女子を2週間受け入れたのを皮切りに以後全て韓国の女子を3泊4日パターンで受け入れて8人になりました。

なぜ韓国かというと、妻は韓国ドラマにどっぷり歴5年、次女がソウルの大学へ1年ほど語学留学、私自身も何度も渡韓している事もあり、学生が滞在しても話題に事欠くことも無くつつい韓国の学生を希望してしまう訳です。

次女は「今度は男子にしたら」と云うのですがダメと真面（まじ）、父親になってます。（冗談ですよ…）

研修生を受け入れて思う事は、言葉は無論ですが文化風習等々は違っていても喜怒哀楽の感情は人間本質的には同じだと思っておりますので、どこにでもいる日本の20代前後の学生と何ら変わり無く「好きな芸能人は？」と聞くと「嵐」とか「台風？」なんて返事が返ってきます。したがって当然今までにこれと云って困った事も無く楽しく学生と接して来ております。

又、渡韓した際には今までに3人の研修生と再会（無論次女も同席です）そのうち1人は両親も一緒に来られて美味しい焼肉をたらふく御馳走になってしまいました。

今後も状況が許すのであれば年2回のショートステイでの小さな国際交流ではありますが受け入れをしていくつもりでおります。

最後になりましたが、香川大学留学生センターの更なる飛躍とホストファミリーを受け入れた事が縁で大変ユニークなロン教授に巡り会えた事に感謝して終りに致します。

Terima Kasih

---

## いつも楽しみ

東海末子

初めてホームステイという言葉聞いてとまどいを感じたこと、いろいろな出会いの中で会話を  
して笑って、電話やメールをいただいて私達家族も少しづつ慣れて楽しみに変わったこと思い出せま  
す。顔を見て目を見て言葉の違いにとまどい向こうに解ってもらうのにお互い時間が要ったこと、  
一緒に首を傾げて不安だった光景が色々共にしながら親しくなれ良かったなあ～と思うことが多  
くなりました。その国のならわしやしきたりを話してもらって驚きました。そして自分の国への誘い  
もあり私達の励み楽しみに変わって、大変なこといっぱいくじけそうな場面にも今喜んでくださ  
ることに元気ももらって待っています。

---

## 「5人の姉と1人の妹」

富田麻惟子

ホームステイの受け入れを通して、韓国と台湾に5人の姉と1人の妹ができました。初めて姉が  
できたのは、2005年の夏でした。毎日たくさん笑って食べて寝たことを覚えています。ホームステ  
イ期間だけでなく、その後も交流が続き、日本で数回会いました。とても日本語が上達していて、  
驚きとともに嬉しかったです。

今まで、私たちの家に来た研修生たちは皆日本語が上手でした。普通に日本語で会話ができ  
たので、研修生だということを忘れそうな程でした。毎回ホームステイの受け入れをして感じる  
のは、研修生たちはそれぞれに自分のスタイルを持っていて、堂々としていて、笑顔が輝いて  
いることです。彼女たちの一生懸命な姿は、私たち家族にとっても良い刺激を与えてくれて、  
笑顔にさせてくれます。また、「頑張らなくちゃ」という気持ちにさせてくれます。ホームステ  
イの受け入れで毎回得るものは大きいと感じています。このような良い出会いの機会に恵ま  
れていることに本当に感謝しています。

---

## 研修生との出会いをとおして

中村奈緒美

これまで、香川大日本語学研修生として、韓国・台湾からの学生を受け入れました。どの学生も  
とても明るく礼儀正しく、日本が大好きであるということが伝わってとてもうれしく思いました。

栗林公園やうどん体験はいつも大学のほうで経験済みだったので、少し遠出をして倉敷や井筒屋敷へ出かけたこともあります。神社やお寺に行ってみたくて案内した方もいます。おそらく一番喜ばれたのは、(受け入れは全て女性でしたので)母に頼んで一緒に着物や浴衣を着せてもらったことでしょうか。冬場は寒くて着るだけに終わりましたが、夏に受け入れた方とは浴衣を着て蛍



を見に行きました。そこで四国新聞の取材があり、翌日小さく紙面に写真が載ったことも思い出です。子どもたちが小さいのですが、どの方もよく一緒に遊んでくださり、大事にしてくださいました。子どもたちと一緒にたこ焼きを焼いて楽しく食べたこともあります。ちなみにこの「たこ焼き」や、ドライブ中に買ってすすめた「たい焼き」なども韓国や台湾にもよく似たものがあるそうです。食文化だけでなく、他にもよく似た習慣や思想があり、より親近感を覚えました。おそらくそういったものは、昔、中国や韓国から日本に伝えられたものでしょうし、近年では戦争などを機に日本から伝えられたものもあるかもしれません。とにかく私たちは、兄弟姉妹のようによく似た環境の中で生活しているのだなと思いました。

研修生の方（海外の方）と話したり共に生活するなかで一番気づかされたのは、「自分がいかに自国の文化を知らないか」ということでした。もちろん、外へ出かければ日本らしい建築物や文化などを紹介できますが、私はお花をいけて家に迎えることも、お茶をたてて作法を紹介することも、自分で着物を着てみせることも出来なかったのですから。しばらく受け入れに参加できていないのですが、この間にまず着付けに挑戦しました。今では自分で着物を着ることが出来ます。知れば知るほど「日本文化は素晴らしいもの」と改めて感じます。研修生との出会いが教えてくれたことと感謝しています。こども達ももう少し落ち着きましたら、また是非参加したいと思っています。

---

## 私のホームステイ

藤 田 はるよ

1月21日午後4時 香川大学へ車を走らせる。研究交流棟4階へ。エレベータが止まる。賑やかにはしゃいだ声が聞こえてくる。インターナショナルオフィスが段々近づいて 私の胸の高鳴りは最高潮に。そして部屋へ。愛くるしく背の高い女性が眼に入る。不安そうな顔から、一瞬にスーッと笑顔に変わる。「私ユウちゃんと呼んで」が彼女の第一声！！ そうです。台湾 輔仁大学 三年日本語学科 高碩君さん。今日から我が家の家族です。

以前から国際交流で外国の方々との交わりがありました。 長年勤めた職も無事卒業、家庭にも一区切り。第二の人生に何かお手伝いが出来れば・・・と思案中に仏生山国際交流会からの紹介もあり、私もより深く異国の文化を知り、視野を広めたいと思ったのがホストファミリー応募のきっかけです。

今回で香川大学のホームステイは3回目の受け入れ。短期間ですが日本をよりよく教えてあげたいという気持から、つつい日程を欲張ってしまいました。「あ～あ、今回もちょっとハードスケジュールだったかなあ」と反省です。

このホームステイを家族も楽しみにしていました。家族の協力無くしては到底難しい。心からファミリーに感謝です！

先日も以前ステイされていた生徒さんから「日本語一級に合格しました」との便りが届き嬉しい限りです。確か当時は三級だったと記憶している。今回で台湾に4人の娘(?)が出来ました。近い将来の再会を楽しみにしています。

## 人と人との友好交流は国を超えて

藤 本 良志美

6月27日夕方、チェ・ソンウクさんを香大へ迎えに行くと、彼は大きなリュックを背負い、新聞紙に包んだヒマワリの花束を私に差し出してくれました。「わざわざ買ったの」と聞くと、日本文化体験講座で活けたものですよと言う。お花はうれしいお土産で、彼のステイ中、わが家の玄関を飾りました。

念願の日本語研修のため、1年間バイトをして費用に当てたと彼から聞いて、日本滞在を充実したものにしてあげたいと心から思いました。入隊中の2年間で20キロ痩せたというけど、それでもふっくら大きい体と優しい目で、夫や娘一家ともすぐに仲良くなったようです。韓国の学生は特に目上に対して礼儀正しく、夫とビールを飲む時も少し横を向いて飲む様子も好感が持てます。

さて、土曜日は、夫のガイド説明付きで、セカチュウ名所見学、庵治石見学、屋島寺、善通寺、瀬戸大橋など香川の名所を案内しました。クリスチャンのソンウクさんですが、八十八か所四国霊場の話にも熱心に聞いていました。

次の日は、チョンジュ大学生のカン・ホキョンさんも加わり、午前は県歴史資料館を見学。武将と十二ひと重の姫様の衣装が着られる無料体験では、先輩に武将をゆずり、彼は女形に変身。2人共すごく楽しかったのか、その夜さっそく衣装姿の自分達の写真をブログに載せ、それが韓国の友人達に大好評だったらしい。実は、わが家滞在中は、パソコンは使用自由にしていました。

午後からは、丸亀のうちわミュージアムへ。ここでは「マイうちわ」作成体験が1人500円で受けられます。うちわの紙は好きな絵を選び、講師の指導を受けながら1時間ほどで伝統的な竹ヒゴの丸亀うちわを完成。うちわの由来と日本一の生産高を誇るうちわの様々な展示を見学して、韓国へのおみやげにと自作のうちわを大事に抱えてわが家へ帰宅しました。

うどん作り体験、うちわ作り体験などは、安くて楽しい文化体験になるので、ホストファミリーの皆様にお勧めコースです。

さて、今回の留学生たちの香川最後の夜は、「庵治の夏祭り見学」でした。

この夏祭りは、大漁を祈願する漁師町ならではの、めずらしい祭りです。

夕方、わが家に集まった留学生達は、うちわ片手に奉納がある皇子神社へ歩いて行きました。元気な神輿に驚いたり、浴衣姿の人達の肩越しに屋台をのぞきながらかき氷を食べ、9時頃からは飾付けした漁船の上空を彩る2千発の花火に歓声をあげて日本の夏祭りを楽しんでいる彼等を見ると、私達の疲れもふき飛びます。

政府同士では、政治問題等でいろいろギクシャクしていますが、私達は人と人との友好交流を地道に築き、世界の平和に繋げていけたらと願っています。



## ホームステイ雑感～ジュン君との4日間で思ったこと～

前川 昌司

香川大学の国際グループで初めて彼に会った時、彼は純朴そうな人なつこい笑顔を浮かべて日本語でこう言った。「私はジュンです。(嵐の) マツモトジュンのジュンです。どうぞよろしく。」私は思わず苦笑いしてしまった。

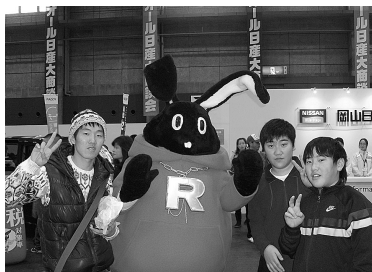
彼、李東駿(イ・ドン・ジュン)は、釜山にある国立大学の4回生でロボット工学を専攻していて、今年から修士課程に進むという。2年間の兵役も終えていて、入隊中は海軍にいたとのこと。また、彼は妻が作ったキムチ鍋をととても喜んで食べてくれたし、私が手を焼いている中2の長男と小6の次男の相手を嫌な顔ひとつせずしてくれて、子供らも彼をよく慕っていた。県内の観光名所もとても喜んでくれた。彼は、経歴も人柄も非の打ち所のない人物だった。

我が家で韓国の人を受け入れたのは今回が3度目だが、昔、最初に韓国男性2人を受入れた時のこと、そのうちの一人が言ったことが今でも忘れられない。「あなたは国のために何ができますか？ 私はこんなことができます。国に貢献しています。」そんなことは考えたこともなかったので、聞いた時はショックだった。「国に貢献する？」思えばその時からなんとなく「国家」というものを意識し始めたのかもしれない。それ以来、韓国の人と話をすると「愛国心って何だ？、健全なナショナリズムってどんなもの？」という疑問をついつい考えてしまう。

私がなぜホームステイのホストファミリーを続けているかというのと、「もしかしたら、世界平和は実現できるかもしれない。」という実感が持てるからだ。(幻想かもしれないけど…) 互いに関心や興味や好意を持った者同士が、美味しい物を食べながら話をして楽しい時間を共有する。そこには国家も国境もこれまでのわだかまりも関係ない。その時間だけは、まさにユートピアである。

これまでの韓国と日本の関係は、似ているがために仲の悪い兄弟のように思える。運が悪かったとしか言いようのない出来事が歴史上いくつもある。

だが、2国間の距離は間違いなく縮まって来ているのではないか？ 少し前まで、日本で「韓流ブーム」が起きることや「Kポップ」が人気を博することを誰が予想できただろう？ 韓国と日本は今とてもいい感じだ。



韓国との関係について、とても力づけられる言葉を最近聞いた。「過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えることができる。だから自分は今を大事にして努力をするし、常に最良の選択をするよう心がけている。」日本と韓国の関係も未来をこうして作ってゆきたいものだ。

サッカーのアジアカップ準決勝の韓国戦は接戦の末に日本が勝った。私は素直に喜んだ。また、決勝のオーストラリア戦で勝利の決勝点を挙げたのが在日4世の李忠成選手だったというのも、今の私の気持ちと妙に符号していて、まるでこれからの日韓関係を象徴しているようで気持ち良かつ

た。中国の台頭やアメリカとの距離間という背景を含めて、日本と韓国は新しい関係を築く時期に来ているのかも知れないと思う。

最後に、ジュン君は（自国の）「一つの国」の実現を強く願っていると言っていた。私もそれを心から祈らずにはられない。それと、今回のジュン君とのご縁をご提供いただいた香川大学の国際グループの教授とスタッフの皆様方に心より感謝いたします。本当にどうもありがとうございました。

---

## ホストファミリーを経験して

渡 部 恵 子

我が家は、香川大学日本語研修プログラムのホストファミリーとして、2005年7月から2010年7月までの5年間で、6名の留学生を受け入れました。

研修プログラムの第1回目から係わらせて頂く事が出来たのですが、最初の受け入れ期間は2週間でした。その時の受け入れ学生は、韓国の女子大生（ジョンオン）でしたが、毎日研修に参加するため、屋島にある我が家から大学まで自転車とJRで通学しました。通学初日、彼女が上手く自転車に乗れないことを知り、夫が付き添って駅まで行ったことを思い出します。それは、娘のいない我が家にとって、実の父と娘のような光景でした。毎日、無事帰宅するまで心配だった事、片言の日本語で一生懸命にその日の出来事を話してくれた事、日本料理と韓国料理を一緒に作った事、着物がきれいだった事……。

2週間、彼女は本当の娘のように私たちに寄り添ってくれました。楽しい思い出をいっぱい作ってくれたジョンオンでした。

彼女との2週間の生活が、あまりにも楽しかったので、その後も台湾から3人、韓国から2人……と、ほぼ毎年受け入れさせて頂いています。ここ数年は、3泊4日のステイとなっていますが、短期間であっても、留学生の皆さんとの時間は充実していますし、毎回違った喜びを頂いています。何度受け入れても、新鮮な出会いと感動が持てるのは、ひとりひとりの個性が違うからでしょうね。今後の新しい出会いが楽しみです！！

ホストファミリーを経験する事によって、異文化交流が出来た事は勿論ですが、大学の先生方や受け入れ家庭の皆様とも交流の場が持てましたし、韓国と台湾に娘が出来た事は我が家の宝物です。時々、インターネットで「お母さん、お元気ですか？」というメールを送ってくれる彼女たちの成長を、日本の母として、この高松から見守っていきたいと思っています。

ロン先生はじめ、諸先生方には、留学生のお世話をお疲れ様でございます。これからもこの研修プログラムが20回……30回……と回を重ねていかれます事を切望いたします。



## 5. 元研修生からのメッセージ

### お久しぶり～香川！

ショウ 蕭      ウ ヨウ 羽 弘

(台湾：第7回プログラムに参加)

大学四年生の時、香川大学が主催した第7回短期日本語研修プログラムに参加させて頂きました。初めて日本の土地に踏んだ時、心がわくわくしていた感じを今までも覚えています。香川大学のサークルICESの皆さんが優しくしてくれて、先生たちが精一杯私たちに言語及び日本文化を理解させてくれて、本当に心から感謝致します。とりわけ、二泊三日のホームステイの体験に私が進学か就職の道に向かうことを左右されました。というより



台湾 真理大学卒業 ショウ ウヨウ 蕭 羽弘

人生が変わられました。ホストファミリーとの暫くの付き合いによって人と人の間に最も誠実で素朴な感情を感じ、異文化コミュニケーションもできました。これを契機にして台湾のお年上にとって馴染んだり馴染んではなかったりする日本、台湾の若者が憧れている日本をもっと知りたいという考えが生まれました。それゆえ、大学を卒業してから香川大学経済学部の研究生として留學生活の幕を開け始めました。帰国後、日本留學の経験をもって、語学力を生かせるグローバル商社に入りました。社会人になっても香川にいったことを記憶し、身に付けたことを活かして職場や人生の道で活躍することを目指しています。こういう貴重な経験があったこそ、他人にはない誇られる自分の宝を持っているとは言えるでしょう。

---

### ロンセンター長へ

チュエ 崔      ソン ウク 成 旭

(韓国：第8回プログラムに参加)

ご無沙汰しております。

私が香川大学の研修に参加したことから最早3年の年月が過ぎました。

センターの方々と、ホストファミリーの皆様もお元気でしょうか。

メール送って頂いて、どうもありがとうございます。

---

香川大学研修の募集のとき、私は日本語を習い始めて7年になったんです。

その前は

[日本に研修なんか行かなくても、自分で一生懸命勉強すれば後悔はないだろう]

と思ったんです。

でも、短すぎた一ヶ月の研修が終わって、韓国に帰って韓国の中で勉強するのでは一生かかっても分からないことを香川大学の研修のお陰でたくさん習いました。

実際、私が感じたのは、「言語だけではなくて、文化もなった」です。

それが就職活動にも役に立ったのは当然です。日本語の面接でも気がくじけることなくぺらぺら～。

日本関係の会社で働きながら日本語をどんどん忘れました。

ある日、日本の本社から社長がいらっしゃいました。事務所で日本語ができる人は私だけ。

+\_\_+ (ピンー)

[社長、ようこそ。ご案内いたします。．．．．．]

社長はお帰りになる前、

[君の日本語はよかったよ。もし、英語もできる？できれば英語＋日本語で本社で働くのはどうですか？]

そういう訳で私は今の仕事をやめて、またイギリスへの留学を準備しています。

---

めっちゃくちゃです。T.T 締め切りは明日で、私は本当にイギリスへの留学の準備で東奔西走しています。

書きたいことはやまほどあります。藤本さんもげんきだろうか。メール送ればまだ覚えているだろうか。

連絡もない私にがっかりしていらっしゃるのではないだろうか。

いろいろ心配です。でもロンセンター長からのメールを読んで、改めて皆さんとの思い出がほろほろして、足りない日本語でメールを書きました。

香川大学での研修は一生忘れられない大事な経験でした。

皆様、ありがとうございました。

「さかえだのうどん、食べたいな～、さぬきうどんは最高です！」

——社長は覚えていないかもしれないですが、会社の名前はFuji Xeroxです——

それじゃまた、

ミギユと丸山竜太君にもよろしくお伝えください。^^

チェソンウクより

## 短期留学と一年間の留学

ヨウ            セイ   ガン  
江                正   雅

(台湾：第9回プログラムに参加)

2009年うちの真理大学のおかげで、短期留学生として香川大学で二週間日本語を研修しました。その時、初めて四国に来ました。短期留学を契機として香川大学の位置とか四国の歴史や地理などがかなりわかるようになりました。あまり長くない二週間でしたが、いい思い出をたくさん作りました。香川大学は短期留学生のためにさまざまな日本語のレッスンや香川県の名所の見学などを行われました。特に三泊四日のホームステイの体験がおもしろかったです。ホームステイのお母さんが優しいし、綺麗だし、それから作った料理は美味しいです。

去年、私はうちの大学に香川大学の一年間の留学生を申し込みました。香川県に戻りたいです。香川大学の先生は親切で、学校の施設も新しいです。もちろんうどんが美味しくて(\*^。^\*)、ほかの理由は香川県の景色や住んでいる環境などが大好きです。静かな生活なので、気持ちが落ち着けるようになって、もっと熱心に学校の講義を聞きます。それに将来の進路をよく考えることができます。

寮から学校への交通手段はだいたい自転車に乗ることで、学校に往復時間はだいたい1時間20分がかかります。冬になると、本当に寒いですが、体力を磨くことができ、体の調子が自然にだんだんよくなりました。

もう一回香川大学に戻れて、すごく嬉しいです。珍しい経験をいい思い出に作って、台湾に持ち帰ります。

---

## 頑張っている今

キョ            キョウ   ヒン  
許                曉   蘋

(台湾：第10回プログラムに参加)

自從到香川大學研修之後，已經過了3年了。香川縣的一切還好嗎？

はじめて、日本語をべらべらしゃべることができたのはすべて香川大学での語学研修のおかげなんです。

今、私はホテルで働いています。7割が日本人のお客様なので、毎日日本語が使えるのがうれしくて楽しんでます。語学研修して以来、どんどん日本語が話せるようになって、聴解もよくなっています。日本語が上手になっているから、自信もできました。例えば、授業で日本語の会話や作文がうまくできるようになりました。そして、今仕事上でも、ときどき日本人のお客様からのご質問を聞いたり、道のご案内をしたり、いろいろな説明をしたりすることも順調にできています。

研修生活の中で各国の人たちと出会えて、ホームステイのことや見学のことや直島に行ったことやパーティーなど、いい経験がたくさんありました。それを体験して、一歩ずつ社会人への道に向かっています。その時の気持ちを忘れずに、頑張っている今の私は香川大学の語学研修を参加して本当によかったと思っています。



## 6. 卒業生からのメッセージ

### 研修生との異文化交流

松田知華

(元 ICES 部員、2009年3月卒業)

私はアイセスに所属していたときに、台湾・韓国からの研修生と触れ合う機会がたくさんありました。ウェルカムパーティーなどのイベントの際には研修生に対して声をかけやすく、色んな研修生と話をしました。しかし、イベントで話すだけでは研修生との距離は近づきませんでした。生活の中で一緒にご飯を食べたり、お茶をしたりと些細なことでも定期的に会って話をすることで研修生との距離が近くなったように思います。研修生は自分の国からやってきて不安もあるはずなので、私たちから積極的に関わることでより深い交流ができると思います。自分と異なる環境、文化の下で生活してきた研修生との交流は新しい発見ばかりでした。まずは、自分がその発見を楽しめることが大切だと思うし、自分が楽しんでいれば一緒にいる研修生も楽しむことができるはずです。これからも異文化交流の機会があれば、新たな発見を楽しみにして積極的に参加したいと思います。

### 研修生と交流する意味

松本悟子

(元 ICES 部員、2009年3月卒業)

私にとって、彼らとの交流は、「人と人との集まりに人が集まり、そこで交流がされていく」こういった当たり前の人とのつながり方を実感できる場でありました。何をしたかといわれればたいしたことはしていません。ただ、お互いに興味のあることを話し、一緒にご飯を食べ、同じ時間を共有することで、外国人としてではなくごく普通の友達になれたと思っています。言葉は通じなくても、同じ人間です。お互いに交流したいと思っていれば、交流できるのだと実感いたしました。留学生に対して、積極的に話しかけてみることで、またそういった場に参加してみることで、小さな個人のアクションが、国際交流の大きな一歩になると感じています。



## 7. 終わりに（今後へ向けて）

2009（平成21）年4月、学生の国際交流と研究面での国際交流の窓口を一本化し、本学として新たな国際交流の道を進んでいくべく、「インターナショナルオフィス」が設置され、我々留学生センターはこのオフィスの中に位置づけられることとなった。オフィス元年とも言うべきこの1年は、新たな再出発へ向けてのさまざまな土台固めの1年となり、各種行事や会議等が続く中で、気付けば年度末、というようなあっという間の1年であった。その慌ただしい年を経て、何とかこのような報告書が発行できる運びとなったのは、語学研修が回を重ねて二桁に達したという一区切りの意味でも、オフィスとしての再出発に臨むうえでも、意義深い成果であると考えている。

インターナショナルオフィスの業務は多岐に渡るが、やはり、学生への教育・支援を主とする留学生センターの一員として本学での教員生活をスタートさせた我々としては、学生のためのよりよい教育・支援・国際交流を目指していきたいという思いは、今後も変わらない。日本語語学研修プログラムにおいても、過去の実績は次へのステップとして尊重しつつ、現状に甘んじることなく、ルーチンの行事になってしまうこともなく、常により充実したプログラムを目指して一步一步着実に歩みを進めていきたいと思っている。本報告書は、これまでの記録であると同時に、今後へ向けての反省材料、発奮材料として、折に触れて読み返していきたいと思う。

塩 井 実 香

## 編集後記

日本語語学研修プログラムは、留学生センター教職員でアイデアを出し合ってスタートさせ、本学の国際交流のため、日本に興味を持つ海外の学生のため、本学と地域とのつながりのために少しでもプラスになればと、試行錯誤をしながら回を重ねてきた。当然ながら、教職員のみの方ではここまで充実したプログラムを続けてくることはできなかった。このたびこのようにこれまでの成果が報告できるのも、国際交流や日本文化に関わる本学サークルの学生の皆さん、ホストファミリーを引き受けてくださるご家庭、観光地でボランティアガイドを務める方々、留学生センター非常勤講師、その他多くの関係者の皆様のご協力があったからこそである。ここで改めて感謝の意を表するとともに、今後も引き続きご指導ご協力いただけるよう、お願い申し上げたい。

香川大学インターナショナルオフィス留学生センター

日本語語学研修プログラム報告書編集委員会 一同

ロン・リム（副オフィス長、留学生センター長、教授）

高水 徹（講師）

塩井実香（講師、編集委員長）

正楽 藍（講師）

香川大学留学生センター 日本語語学研修プログラム  
報告書（第1回～第10回）

印刷・発行 2011年3月31日

編集者

〒760-8521 高松市幸町1-1

香川大学インターナショナルオフィス留学生センター

日本語語学研修プログラム報告書編集委員会

FAX 087(832)1155

印刷所 牟禮印刷株式会社



